プレスリリース

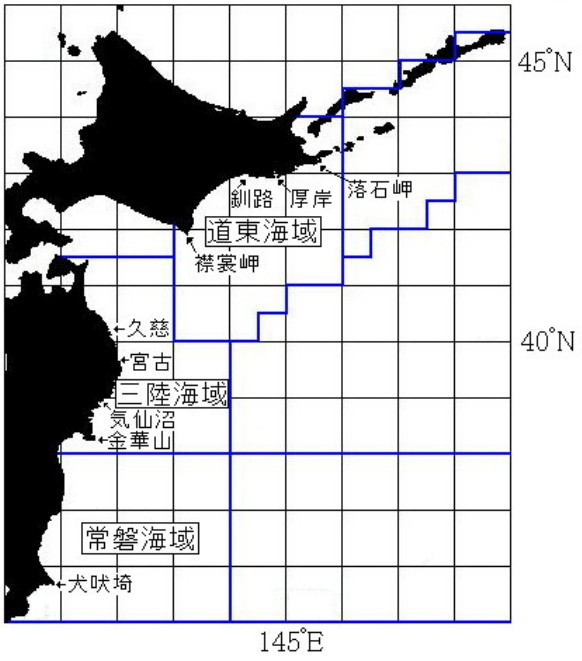
２０２６年１１月１９日
一般社団法人 漁業情報サービスセンター

２０２６年度 第８回サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2026年11月下旬～12月下旬）のポイント

来遊量
・道東海域では、終漁。
・三陸海域では、11月下旬は低位水準で推移する。
・常磐海域では、11月下旬は低位水準で推移する。



海域の名称

問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 水産情報部
担当：渡邉、源
電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881
当資料のホームページ掲載先URL
https://www.jafic.or.jp/information/category/gyokyo/

2026年度 第8回サンマ中短期漁況予報

1. 今後の見通し

予測期間：2026年11月下旬から12月下旬までの旬別
対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域
対象漁業：さんま棒受網漁業
対象魚群：南下回遊群

1）道東海域

(1) 来遊量

来遊量は少なく、終漁。

(2) 漁場

漁場は形成されない。

2）三陸海域

(1) 来遊量

11月下旬～12月上旬は、低位水準で推移する。12月中～下旬は、断続的な来遊となる。

(2) 漁場

11月下旬～12月上旬は、三陸南部に漁場が形成される。12月中～下旬は、漁場は形成されない。

3）常磐海域

(1) 来遊量

11月下旬～12月上旬は、低位水準で推移する。12月中～下旬は、断続的な来遊となる。

(2) 漁場

11月下旬～12月中旬は、常磐北部～南部に漁場が形成される。12月下旬は、漁場は形成されない。

2. 予測の概要

海　　域		11月下旬	12月上旬	12月中旬	12月下旬
道東海域	来遊量				
	動向				
	漁　場				
三陸海域	来遊量	→	→	→	→
	動向	低位水準	低位水準	断続的	断続的
	漁　場	三陸南部	三陸南部		
常磐海域	来遊量	→	→	→	→
	動向	低位水準	低位水準	断続的	断続的
	漁　場	常磐北部～南部	常磐北部～南部	常磐北部～南部	

3. 漁況の経過概要（11月上旬）

1）道東海域

（1）来遊量

道東海域における来遊量は、少なかった。

（2）漁場

道東海域では、漁場は形成されなかった。

2）三陸海域

（1）来遊量

CPUE（1網あたりの漁獲量）から判断すると、三陸海域における来遊量は、10月下旬並みで、前年を下回り、低位水準であった。

（2）漁場

三陸海域では、気仙沼～金華山沖に漁場が形成された。気仙沼東15海里～金華山南30海里の漁場水温16～18℃では、大型船が10～40隻弱と小型船が操業。大型船で最高16.0トン、平均2.1トン漁獲した。

（3）魚体

三陸海域では、体長22～29cmが主体、体重40～100g台が主体であった。

3）常磐海域

（1）来遊量

CPUE（1網あたりの漁獲量）から判断すると、常磐海域における来遊量は、10月下旬を上回ったものの、前年を下回り、低位水準であった。

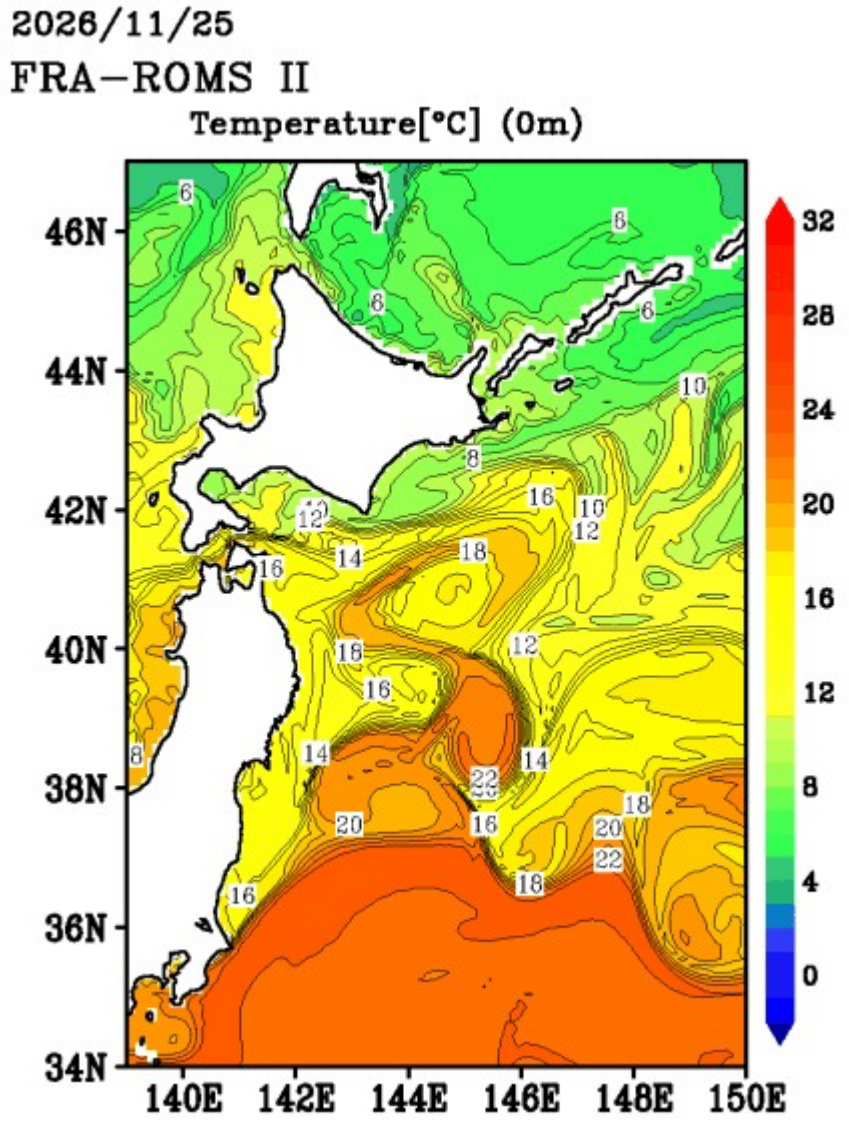
（2）漁場

常磐海域では、小名浜沖に漁場が形成された。小名浜北北東60海里～東北東25海里の漁場水温18～20℃では、大型船が数隻～25隻弱操業し、最高3.5トン、平均0.4トン漁獲した。

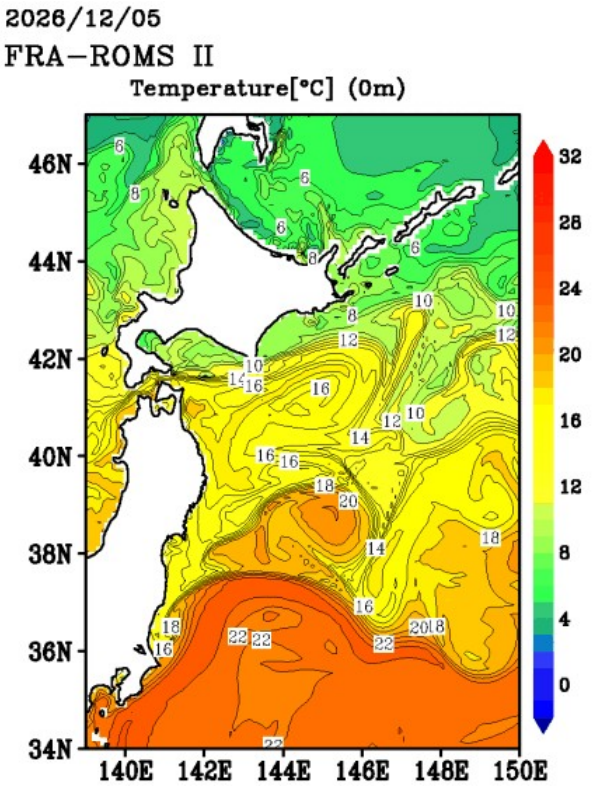
（3）魚体

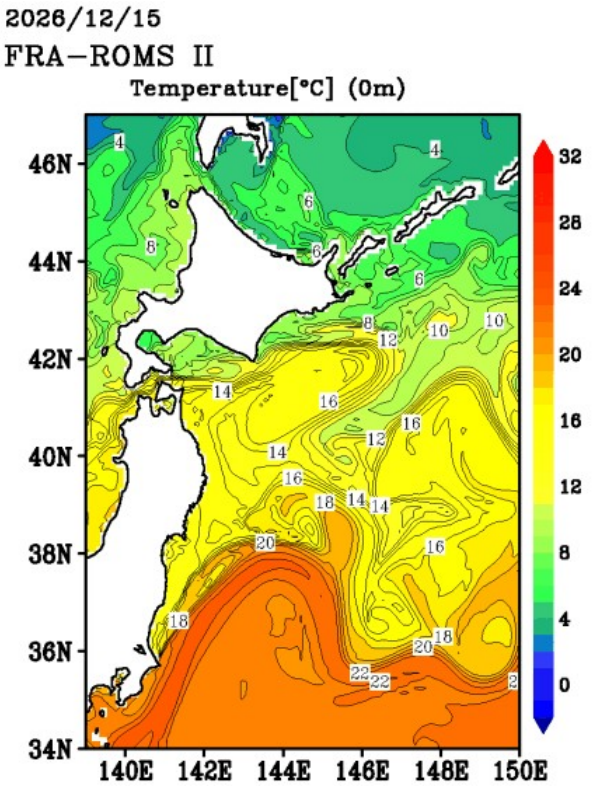
常磐海域では、体長22～29cmが主体、体重40～100g台が主体であった。

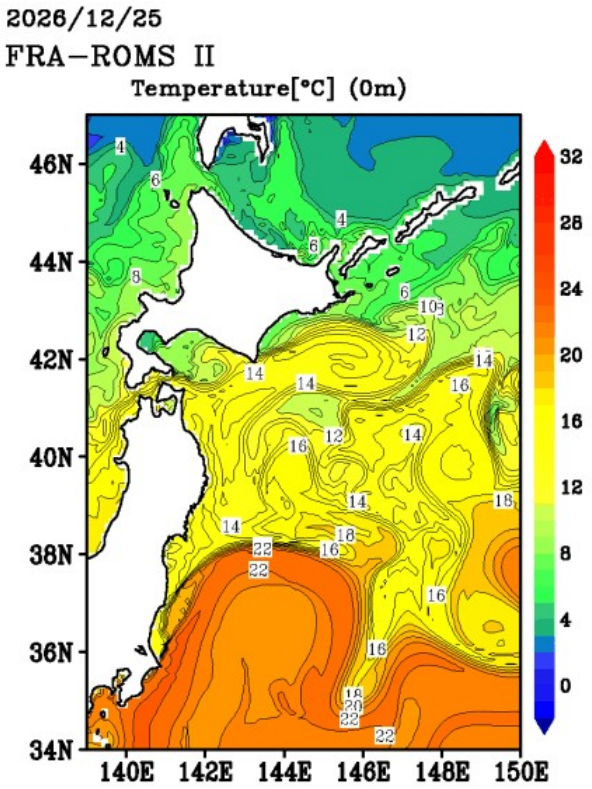
4. 予測水温分布図

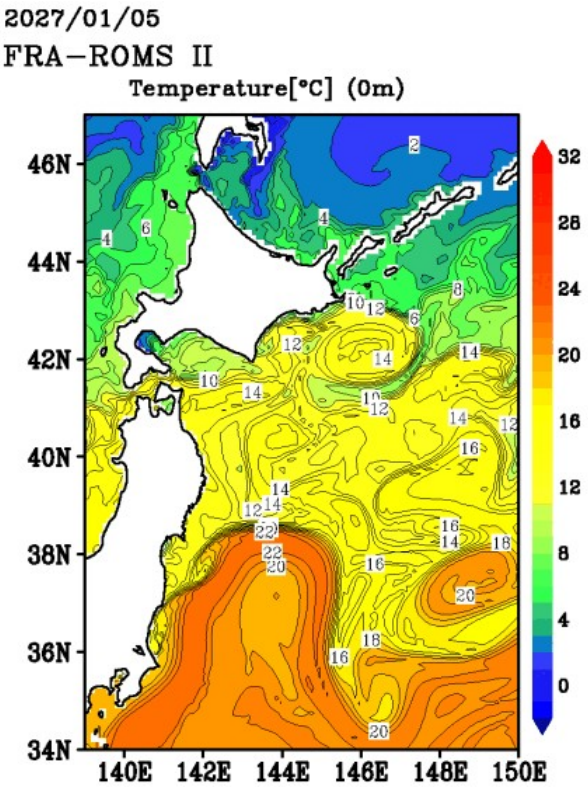


海況予測システムFRA-ROMSⅡによる0m深予測水温（2026年11月25日）
2026年11月18日にHPより取得した









海況予測システムFRA-ROMSⅡによる0m深予測水温
2026年12月5日(左上)、12月15日(右上) 、12月25日(左下)、1月5日(右下)
2026年11月18日にHPより取得した

参　画　機　関

地方独立行政法人　北海道立総合研究機構 水産研究本部　釧路水産試験場 岩手県水産技術センター 宮城県水産技術総合センター 福島県水産海洋研究センター	茨城県水産試験場 千葉県水産総合研究センター 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所 （取りまとめ機関） 一般社団法人　漁業情報サービスセンター